

『農業の担い手確保育成推進大会』・『第20回岐阜県農業経営者研究大会』

－新時代の農業改革にどう取り組むか－ の開催結果概要



認定農業者や集落営農を地域ぐるみで確保育成して、新時代の農業改革にどう取り組むかを課題に、**3月3日（金）**、大垣市大垣フォーラムホテルにおいて、午前中は、岐阜県農業会議、岐阜県担い手育成総合支援協議会が主催する「**農業の担い手確保育成推進大会**」を、午後からは、岐阜県農業経営者協会、岐阜県認定農業者連絡協議会、岐阜県農業法人協会との共催で、「**第20回岐阜県農業経営者研究大会**」を併せて開催しました。

この大会には、農業経営者協会会員、

認定農業者、集落営農の代表者、農業法人、農業委員、行政・農業団体等の関係者**180名**が集まり、農業改革が推進される中での、認定農業者・集落営農など担い手の確保育成、農業経営の改善意識や地域とともに生きる担い手像は何かを課題に、情報・知識の交換・相互研さんを行いました。

主催者を代表して、**岐阜県農業会議の上松忍会長**は「担い手の育成と耕作放棄地の解消に向け、関係機関と連携して支援をしていきたい」とあいさつ。**県農政部の山内清久次長**は「県は新たな農業・農村振興ビジョンの策定作業をしている。現場の実態や意見を踏まえ、方向を定めたい」と話しました。



山内次長

全国情勢報告

全国農業会議所の池田辰雄経営担い手部長が、「認定農業者等担い手の今後の経営をめぐる」と題し、経営所得安定対策を推進する背景や移行のイメージ、要件等について説明をした上で、認定農業者として進むべき道として、**個別経営としての認定農業者、**
- 1 土地利用型農業部門は土地利用型の認定農業者に委ねる、と
- 2 土地利用型農業部門は集落営農に委ねる、があるが「今年の春までに、意志決定と地域での話し合いで進むべき道を決めることが必要である」と述べました。



事例報告

1. 県内事例

飛騨市農業委員会長の岩塚吉郎氏は、「担い手の確保・育成に取り組むには」と題し、岩塚氏が参画をしている飛騨古川農業農村振興会議の取り組んだ、認定農業者支援、食農教育、耕作放棄地の解消等の事例を報告しました。



2. 県外優良事例



滋賀県甲賀市（農）酒人ふぁーむの福西義幸理事は、「人の輪と集落の和」で農地を守り、「儲ける農業」にチャレンジと題し、（農）酒人ふぁーむの設立の経緯や事業の展開方向、営農組合の経営戦略などを披露しました。

この営農組合は、酒人集落56名で構成する特定農業法人で、53.8haを持ち、出資金448万円。

経営は、生産調整50%への挑戦、環境こだわり農業の実践（軟弱野菜、減農薬・減化学肥料野菜）土日祭で味あう最高の贅沢自作農家、入作農家、経営受託農地ゾーンの設定人の手でしかできない作業の創造で、集落の農業のあり方については、集落営

農は、集落の維持存続・発展、農業で成り立つ経営法人化は、集落・地域の永遠の発展なら農事組合法人、組合員の共同の利益経営者の分化生産のための役員集落は集落民で守る後世に繋ぐもの盤石の営農組織。であって欲しいと、熱意をこめて事例を報告しました。

記念講演

滋賀県立大学の小池恒男教授は、「地域農業の担い手の育成・支援・確保対策の決め手は何か」と題して、この中で、農業改革が推進される背景や問題点を指摘しながら、取り組み方によっては、稲作をはじめ、米の生産調整、農地の利用等に影響を与える懸念があるとした上で、地域農業の担い手育成・支援・確保対策の決め手は、

価格（支持）政策から直接支払いへ

融資政策、資金政策

育成・支援・確保のためのソフト対策

農地制度・農地の利用システムの改善

地域資源の有効利用を図り、担い手を掘り起こしていく取り組み

地域農業組織化戦略

政策選択

「最後は上場です」と観念すること

認定農業者と特定農業団体（集落営農）が地域農業の車の両輪という位置づけ

求められる畜産に対する特別な配慮

で、他産業従事者との比較で、所得において農業が比較的優位を持つのか持たないのか、その比較的優位の条件をつくり出す上で、より有効な担い手の育成・支援・確保対策は何かを考えるべきである。と述べられました。



パネルディスカッション

「いま地域に生きる農業の担い手育成にどう取り組むか」をテーマに、（農）酒人ふぁーむ理事の福西義幸氏、高山市の（農）荒城営農組合組合長の田中利博氏、海津市の西濃地域経営アドバイザーの伊藤悦子さん、生活協同組合コープぎふ非常勤理事の河合智子さんが、滋賀県立大学教授小池恒男氏のコーディネートのもとで話し合いました。





主な内容は、新規就農者育成では、「農地の確保や多額の設備投資が、就農希望者の悩みになっている」「技術指導を受けられる環境づくりが必要」などの課題を挙げ、就農資金や技術研修などの支援強化の必要性を指摘。担い手づくりは、「農業者、どちらか一方の努力だけでは問題は解決しない。関係者全員が一体となって、取り組むことが重要になる。」との意見が出されました。

地域の農地や集落機能の維持に向けては、「農村環境や景観の保全是農家だけの問題ではない。問題をわかちあい、集落を守っていく体制づくりが必要になる。」と協調。「農村づくりは地域づくり。他産業と協力をし、まずは魅力ある地域づくりを」と、農業の枠を超えた異業種間の連携の強化への要望が出されました。

女性のパネラーからは、女性から見た農業経営や、消費者から農業者へのメッセージや会場からの意見や質問も出され活発なディスカッションになりました。

